



「継続は力なり」



鴨島小学校 校長室だより
第36 (最終) 号
令和6年3月1日

学校教育目標：自他の生命と人権を尊重し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動できる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

～♪ 令和5年度のフィナーレ (最終章) にむけて ♪～

弥生3月になりました。周りの自然を注意深く観察すると、春の訪れをいろいろな場所で感じることができます。学校近くの公園では梅の木が満開を迎えようとしています。本校の子供たちも同様に、これまでの努力が実り、様々な面で満開の花を開かせてくれた時にはとてもうれしい気持ちになります。朝会で表彰を受けた子供の、はにかみながらもどこか誇らしげな表情を見るのが私はとても大好きです。

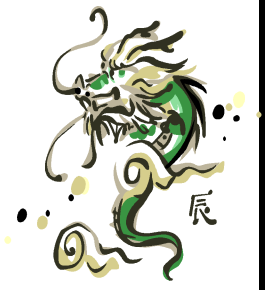
さあ、子供たちが令和5年度の有終の美を飾ることができるよう、我々教職員も全力でがんばります！皆様、最後まで御支援よろしくお願ひいたします。



自立に向けた準備をすること ～物事の重要な部分～

中国の故事に「画竜点睛 (がりょうてんせい)」という言葉があります。これは、中国の南北朝時代に「竜を描いて最後に『眼』を描き入れたところ、壁に描いたその竜が、たちまち天に昇っていった」という内容のお話です。このことから、「画竜点睛」の意味は「物事の最後の大事な仕上げのこと」とか「物事の重要な部分となること」になっています。日常では「画竜点睛を欠く」という表現で、「最後の大事な仕上げができていない」という意味でよく使われます。ちなみに「睛 (せい)」は「瞳 (ひとみ)」と同じ意味だそうです。

ここで感じたのは、竜の絵を描くことと子育てには共通点があるのではないかということです。子供が生まれたときから家族は手塩にかけて (心を込めて) 竜の絵を描くように子育てをしていきます。学校も地域も行政も、竜の絵が完成していくようにと支援をしていきます。そして、子供自身も成長に伴い自ら絵を描き始めていきます。いよいよ眼を入れるだけという時期は、個々によって異なってくるのでしょうか。いずれにしても最後に眼を入れるのは子供自身です。「たちまち天に昇っていった (自立)」ようになるためにも、心を込めて竜の絵をつくり上げていきたいものです。



子供がいつの間にか心身ともに大きく成長していく瞬間に、人間としての最も大切な「眼を入れること」すなわち「自立に向けた準備をすること」を私たち大人は忘れてはなりません。これを怠ることは、正に「画竜点睛を欠く」ということになりかねません。お子様が来たるべきその時に備えて、支援 (手助け) をするのが私たち大人の役目であると考えます。



これからも、一人一人の子供が「瞳」を輝かすことができるように知恵を出し合い、協働していく学校・家庭・地域であり続けたいと思います。

今年度最終号は「辰年」にちなんだお話でした。

☆ 今年度最終号「継続は力なり」ご愛顧ありがとうございました！ ☆

今年度も鴨島小学校の教育活動に対しまして、多大なる御支援・御尽力を賜りました保護者の皆様、地域の皆様及び関係者の皆様には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。紙面を借りて心より感謝を申しあげます。

「校長室・学年」だよりは、HPではカラーで見ることができます→



鴨小QRコード